



9月号の二つの読後 感想文を読んで

富澤 暉 陸自60

9月号掲載の二文、①小西誠一氏（陸士60）が書かれた『大東亜戦争日本は「勝利の方程式」を持っていた』（茂木弘道著）への感想文、と②中川義章氏（陸自78）が書いた『なぜ必敗の戦争をはじめたのか』（半藤一利編）への考察文、を読んだ。なお、②に関して中川氏は『偕行』4月号に同書発刊（平成31年2月）直後の読後感を発表している。

私は茂木氏の原本を読んではいないが、氏とは戦争観が異なり偕行社内内で議論したこともあるので、小西先輩の見事な整理要約文を読んで著者（茂木氏）の言わんとすることを直ちに理解できた。一方で小西文での主題「対米英蘭蒋戦争終末促進に関する腹案」について中川文は4・9月両号で全く触れていない。そこで半藤氏の原本を改めて読み直してみたら「第7章・対米開戦」にこの問題が縷々述べられていた。この章の記述は極めて面白い。茂木氏は「この腹案通りにやれば日本は勝てた」と言っておられるが、茂木氏が40年以上も前に『偕行』に掲載されたこの座談記録を読んでおられたら「この腹案が勝利の方程式であった」などとはとても言えなかっただろうと私は思う。結局は「持久戦を続ける

間」に世界の状況が変わるだろう」という他力本願で、これをまともな「戦争終末指導案」と考えていた人物など殆ど居らず、本腹案についての議論は全くなかったのである。

とまれ、かくも内容の異なる両文を読んで考えさせられたことを幸運に思い、小西・中川両氏と『偕行』編集部に感謝しつつ、これを機に『偕行』を議論・発展の場とすることを提案したい。

かつて、故戸塚編集長に「『偕行』では常に異なる二論、三論を併記するようにしてはどうですか」と提案し「それは良いことだ」と同意を頂いたのだが、結果としてそれは殆ど実現されなかった。

改憲問題について、現偕行社には「2項そのまままで自衛隊明記の改憲案」に賛成の意見もあるし、「自衛隊はまずい、軍が駄目なら防衛隊にして欲しい」の意見もある。不肖私は、かつて「2項を削除して、国防軍とすべし」という意見だったが、このところ「憲法は変更できさうもない」ならば「軍事は国内法ではなく国際法・条約に準拠すべきもの故、98条2項により判例・事例に基づき準備し行動する」と国民を説得し「自衛隊の名称は防衛軍（隊）とすべし」と考えるようになった。

議論・討論が物事を発展させる。機関誌「偕行」をそのような場としたい。